

事業計画の概要

平成18営業年度 北海道支社

目 次

1 . はじめに	1
2 . 高速道路建設事業の事業計画	2
3 . 高速道路管理事業の事業計画	4
4 . サービスエリア・パーキングエリア事業の事業計画	9
5 . 道路受託事業の事業計画	10

1.はじめに

NEXCO東日本（東日本高速道路株式会社）は、政府の特殊法人改革により、平成17年10月1日に設立、スタートいたしました。

NEXCO東日本は、『お客様に信頼され真に国民のためになる』ことを目指し、次の経営方針を掲げています。

- ・ 高速道路をご利用されるお客様とのふれあいを第一に、お客様の満足の向上に努めます。
- ・ 徹底したコスト削減のもと、効率的な経営を行い、高速道路の貸付料を着実に支払います。
- ・ 談合等の不正防止やファミリー企業の見直しなど、公正・透明な経営を通じ、信頼性の向上に努め、企業の社会的責任（CSR）を果たします。

NEXCO東日本としては、これらの方針を実現していくため、平成18年度以降の具体的な経営方針・経営目標（数値目標）を定める『中期経営計画』を本年10月を目途に策定することとしています。

平成18営業年度事業計画は、NEXCO東日本として初めて1年間を通じた事業計画であるとともに、今般日本高速道路保有・債務返済機構との間で締結した高速道路事業に関する協定の内容に従い、かつ、それぞれの施策はこれから策定する『中期経営計画』にもつながっていくものです。

今年度は民営化会社として本格的なスタートを切る年であり、公団時代の事業運営方式から脱却し、株式会社としての経営のしくみを形づくっていく重要な時期ととらえ、会社全体が進むべき方向を見定めつつ、それぞれの施策を着実に実行していきます。

2 . 高速道路建設事業の事業計画

平成18営業年度の高速道路の新設事業について、北海道支社全体延長(約711km)の約78%にあたる約561kmの高速道路ネットワークが形成されます。

平成18営業年度の高速道路の新設は、北海道縦貫自動車道、北海道横断自動車道の2路線、約172kmの区間及び虻田洞爺湖IC(インターチェンジ)の事業を実施します。

事業実施にあたっては、コスト削減への継続的な努力を前提に、信頼性の高い高速道路ネットワークを構築するため、機構との協定に基づき計画的かつ重点的な高速道路整備を行うとともに、その機能の向上・強化を図ります。

また、地球温暖化防止のため、新設する高速道路の斜面に植樹しCO₂の削減に努めるとともに、確実に品質を確保するため、体制の強化や技術の開発・活用を行い、「良いものをいかに安く作るか」という課題に積極的に挑戦していきます。

本営業年度内に以下の区間の開通を予定しています。

【新規開通予定区間】

- ・道央自動車道(八雲IC(インターチェンジ)～国縫IC):約21.7km

【平成18年度開通予定区間】

【八雲IC 付近】



【国縫IC 付近】



印の施設名称は仮称です。

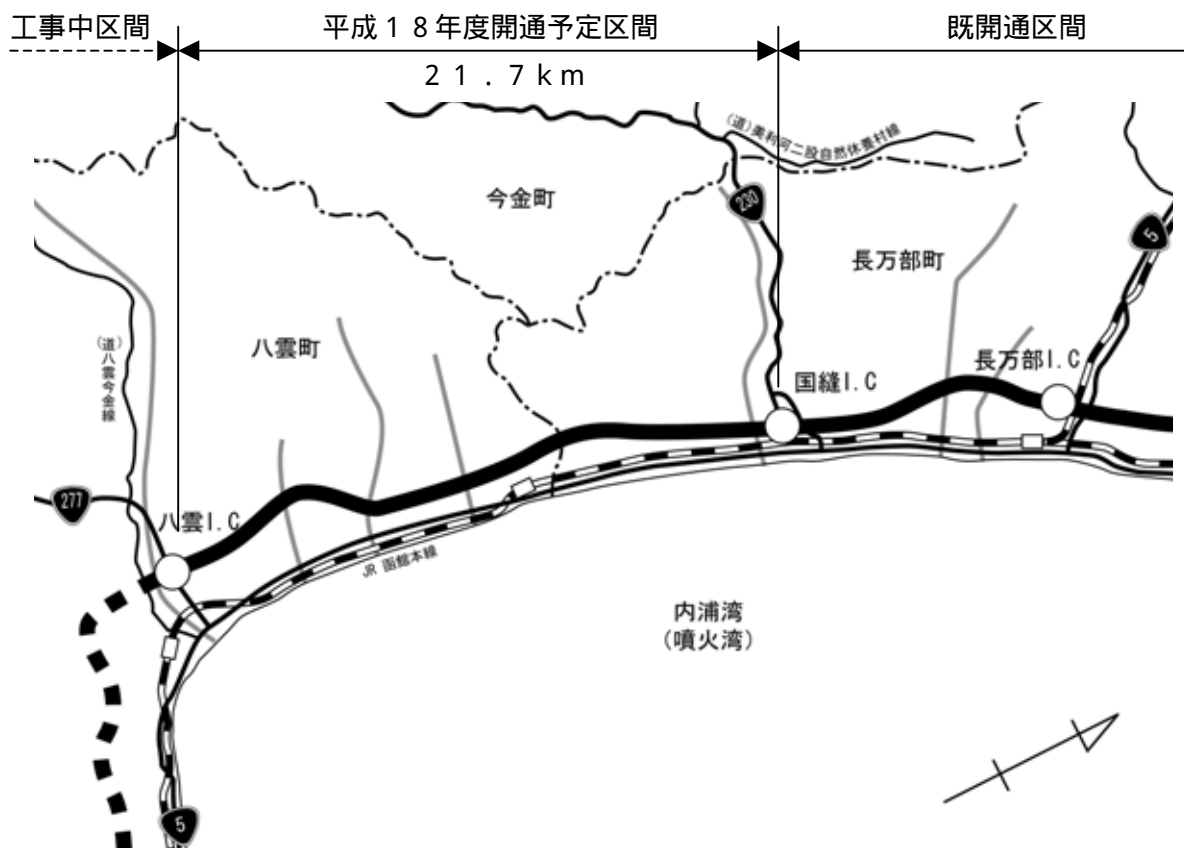
平成 18 年度 開 通 予 定 区 間 概 要

[道央自動車道 (^{やくも}八雲 I C ~ ^{くんぬい}国縫 I C)]

開通区間	ほっかいどうふたみくんやくもちょう 北海道二世郡八雲町から	ほっかいどうやまこしくんおしゃまんべちょう 北海道山越郡長万部町まで
延 長	2 1 . 7 k m	
幅員及び車線数	3 . 5 m × 2 車線	
設 計 速 度	1 0 0 k m / h	
インターチェンジ	1 箇所 ^{やくも} 八雲 I C ほっかいどうふたみくんやくもちょう 北海道二世郡八雲町 (一般国道 2 7 7 号に連結)	

路線概要

道央自動車道は、広大な面積を有する北海道を南北に横断し、道央圏と道南・道北圏を連結する高規格道路であり、沿線地域の産業・経済・文化・観光等の発展及び振興に寄与する重要な路線であります。今回開通する八雲 I C ~ 国縫 I C 間は、道央自動車道の南へ延伸する 2 1 . 7 k m の区間で、道南方面へのアクセスが向上すると共に、地域における唯一の幹線道路である一般国道 5 号の代替路として機能することにより、災害に強い道路ネットワークが構築されます。更に、長万部町から八雲総合病院 (2 4 時間体制) までの搬送時間短縮が図られ、沿線住民のより安心できる暮らしの実現に貢献します。



工事中の施設名称は、仮称です。

3 . 高速道路管理事業の事業計画

安全で円滑な交通を確保するとともに、お客様に満足していただけるサービスを提供します。

また、トータルコストを削減し、効率的な道路管理に取り組みます。

安全で快適な走行環境を確保するため、交通安全対策を推進するとともに、舗装の高機能化など道路機能の維持・向上を図ります。

安全で安心してご利用いただけるよう、路面や構造物、施設設備などの維持・点検に努めます。

雨天時の走行環境を向上させるため高機能舗装化を進めます。

- ・道央自動車道、札幌自動車道で高機能舗装化を進め、高機能舗装率を51%から54%に向上させます。

地域の交通特性、お客様のニーズを反映した、より安全で効率的な工事規制の実施に努めます。

道路の定時性を確保するため、通行止時間の削減を目指すとともに、道路情報提供の充実に努めます。

関係機関との連携により通行止の際には迅速な交通の回復に努め、通行止時間の短縮を図ります。

- ・迅速・効率的な作業・点検等により通行止時間の短縮を目指します。

渋滞予測情報を提供し、渋滞緩和を目指します。

- ・大きな渋滞の発生が予測される場合には、事前に情報を提供します。

通行規制の事前広報に努めます。

- ・台風などの異常気象により通行規制が予想される場合には、出来る限り事前に情報を提供します。

情報提供機器をより有効に活用するなど、リアルタイムで詳細な情報提供に努めます。

- ・通行止め実施、解除時には、マスコミへの迅速な情報提供を行います。

通行止発生時には、通行止解除に向けた作業状況などの情報提供に努めます。

- ・開通を待たれているお客様に対して、休憩施設内の放送、ハイウェイラジオ、ハイウェイテレホン等、様々な手段によりできる限りの情報を提供します。

冬期間の交通を確保するため、雪氷作業や雪氷対策設備の更なる充実を図るなど、雪に強い道路を目指します。

冬期間の気象変化に対しても極力交通を確保するよう、地域・気象特性に即した雪氷作業を行います。

- ・地域・気象特性及び道路の特性に応じた効率的な雪氷作業等に取り組みます。

降雪時等の走行性向上のため、防雪柵の設置など、視程障害防止対策を進めます。

- ・道央自動車道などに防雪柵などを設置します。



道路の特性に応じた雪氷作業



防雪柵

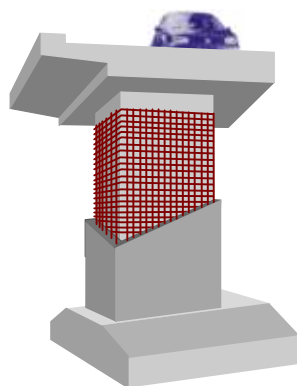
災害に強い道路ネットワークを構築するため、橋梁の耐震補強など防災対策を推進します。

阪神・淡路大震災クラスの大地震にも耐えられるよう、対策が必要な橋梁の補強を行っていきます。

- ・道央自動車道、札幌自動車道において橋脚耐震補強工事を行い、北海道支社管内の補強率を57%から62%に向上させます。

降雨防災の強化を図ります。

- ・道央自動車道、道東自動車道において、のり面防災工事を実施します。



橋脚の耐震補強

E T Cの利便性向上、E T Cを活用した弾力的な料金設定、接客マナーの向上などお客様サービスの充実に取り組みます。

E T Cを活用してお客様に満足していただけるような料金サービスを展開していきます。

- ・マイレージサービスを活用した車載器購入支援策（600ポイント付加）を継続します。
- ・すべての道路において、料金の額50円につきマイレージポイントを1ポイント付加します。

接客マナーを向上させ、お客様に気持ち良くご利用していただけるよう努めるとともに、割引料金を分かりやすくご案内するなど、お客様の声に適切にお応えしてサービスの向上に努めます。



道央道 札幌南料金所

技術開発を推進することなどによりトータルコストを削減し、効率的な道路管理に取り組みます。

地域・気象特性に応じた舗装など新技術の開発を進め、また新工法を採用するなど、コスト削減を目指します。

ライフサイクルコストの最小化を図るマネジメント手法を導入するなどし、道路構造物の延命化を図るなど、効率的・効果的な道路管理に取り組みます。

環境の保全に配慮した道路管理に取り組みます。

循環型社会の育成に資するため、建設発生土、コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊などの建設副産物のリサイクルを推進します。

地域、関係機関等との連携を強化し、高速道路による社会への貢献を目指します。

地域の観光施設やイベントとタイアップして利用促進を図るなど、地域に根付いた高速道路を目指します。

常に安全で安心して円滑にご利用いただき、高速道路が地域のくらしの向上に寄与するよう、道路管理を適切に行います。

大規模災害時には、関係機関との連携を図り、高速道路が緊急輸送路として迅速かつ円滑に機能するよう努めます。

4 . サービスエリア・パーキングエリア事業の事業計画

サービス水準の向上と個性的なサービスを展開し、お客様にご満足いただけるサービスを提供するとともに、収益の拡大を目指します。

収益向上に向け、すべてのエリアでのサービスレベルの向上を目指し、特産品の販売、季節に合わせたイベントを開催するなど、サービスエリア・パーキングエリアの魅力を高めます。

管理・運営事業としては、4月1日に財団法人より事業の譲渡を受け、当社全額出資の子会社「ネクセリア東日本株式会社」と一体となり、道央自動車道有珠山サービスエリアなど計36箇所の管理・運営を行います。

S A ・ P A の施設の設置状況（平成18年4月1日現在）

S A P A の施設箇所数	うち飲食物販施設を有する施設	うちガスステーションを有する施設	うち飲食物販施設及びガスステーションを有する施設
36箇所	14箇所	6箇所	6箇所

【取組みのイメージ】

特産品の販売例



季節にあわせたイベントの開催



5 . 道路受託事業の事業計画

長年培ってきた技術とノウハウを活かし、国、地方公共団体等の事業推進に貢献していきます。

新直轄方式で整備することとなった高速道路について、技術とノウハウを活かし、事業推進に協力するとともに、信頼性の高い高速道路ネットワークの構築に貢献します。